（様式２・中学校用①）

令和２年度　学　校　評　価　報　告

草加市立瀬崎中学校
（令和３年１月２２日作成）

１　学校教育目標	
『よりよく生きる』自らの生き方を考え、実践する生徒の育成 「ま」…学び続ける生徒　「つ」…強い体をもつ生徒　「な」…仲間を思いやる優しい心をもつ生徒　「み」…みんな仲良く笑顔あふれる生徒　「き」…希望をもち夢に向かって努力する生徒	
２　重点目標・努力目標	**３　前年度の成果と課題**
１　わかる・できる・伸びる授業を展開し、基礎学力の定着を図り、学力の向上に努める。 ①「授業の５原則」と「学力向上５つの対策」の徹底 ②「学習形態の工夫、ICTの活用」 ③「自己肯定感・自己有用感を育む授業の展開」 ④「特別支援教育の視点・支援の具体化」 ２　不登校、いじめ問題の未然防止、根絶を目指す取組、道徳教育と教育相談体制の確立 瀬崎中学校区幼保小中・地域・家庭で連携し、安心で安全な学校づくりに努める。 ３　学習環境を整備し、安全で落ち着いた環境づくりに努める。 学習の場にふさわしい掲示・言語環境づくりときれいで使いやすい学校づくりに努める。 ４　家庭・地域と連携を密にし、期待に応えられる学校づくりを推進する。 信頼関係をさらに構築し、開かれた学校づくりを進めていく。	成果 ○学校経営方針を全教育活動に反映し、全職員で共通認識のもと学校経営にあたることができた。特に学校教育目標を元に生徒だけでなく保護者も意識させながら学校経営を行うことができたことが学年・学級経営の充実、地域との信頼関係の深まりにつなげることができた。 ○幼保小中一貫教育の目指す生徒像を意識し、生徒の自己肯定感や自己有用感を育む授業展開を図ることができた。 課題 ●コロナ禍のため、生徒の安心・安全を最優先する中で様々な行事（小中連携含め）が中止とせざるを得ない状況であった。今後は、ICT機器やネット環境を活用し、コロナ禍において少しでも生徒のために何ができるかを考えて工夫を凝らしていきたい。 ●不登校生徒の減少がみられず例年ほぼ横ばいである。相談員・カウンセラー・SSW等連携を強化して状況を少しでも改善していきたい。

４　評価表 ※評価基準〔Ａ：十分達成している　Ｂ：おおむね達成している　Ｃ：やや不十分である　Ｄ：不十分であ

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題　○成果　●課題
Ⅰ　学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	B	○学校経営目標と方針の徹底のために、コロナ禍で朝の打ち合わせ等ができない中、校支援また臨時の打ち合わせ等で教職員に周知徹底を臨機応変に図ることができた。また随時職員との面談、運営委員会、学年会を通して校長の意志を職員で確実に伝えていく組織運営ができた。 ○校務分掌組織を精選し、教職員の適材適所への配置を意識して行った結果、効率的な運営ができるようになってきた。 ○職員会議の運営時間の短縮のために、校支援で事前に質問・意見事項を募ることで会議前に提案担当者が提案を訂正したり、意見や質問に対する回答を事前に検討できるようになったことで会議運営時間の短縮につなげることができた。 ●小中連携では、コロナ禍でほとんどの行事が中止となり、小学校との交流がなかなか実践できなかった。 ●さらに校務分掌の精選に取り組み、効率的な運営とともに業務改善に取り組んでいく。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	B	○「学力の向上」について、自己肯定感や自己有用感を育てるための授業改善に各教科で研修を行うことができた。 ●コロナ禍で幼保小中一貫関係の「小中合同研修会」「推進委員会」等を開催できなかったのでICT機器で工夫して実施できるようにしていく。

	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○保健計画、安全計画をもとに、保健指導及び安全教育の充実を推進した。 ○今年度も毎月定期発行の「保健」「給食」だよりで保護者への啓発を行った。 ○危機管理マニュアルのもと、管理職と教職員で毎日安全点検を確実に行い、管理に努めることができた。また分掌毎に点検、学期一回の安全点検も形骸化しないよう、組織で実施している。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	A	○個人情報持ち出し簿などの校内規定の遵守の他、教頭だよりの発行を通して教職員事故の未然防止に努めることができた。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	A	○学校スマイルメール配信により、地域や県内における不審者発生状況等を迅速に発信し、注意喚起をすることで、地域全体で子供たちを見守る環境を作ることができた。 ○毎月発行の「学校だより」は保護者と地域（民生委員、町内会）に定期的に配布することができ、学校に理解と協力をいただいた。 ○学校運営協議委員は現状報告だけでなく、学校運営に関することを地域でどのように感じているか、などさまざまなご意見をいただき、学校経営に取り組むことができた。 ○学校評価等のアンケート等、スマイルメールやホームページを利用し電子入力システムを新しく導入したことで学校運営に意見を反映させやすくなった。 ○PTA運営委員会等役員の会議はコロナ禍で途中開催できないときがあったが、紙面発表や役員との連携を密にすることによって、保護者と連携して学校教育を進めることができた。
	⑥幼保小中を 一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	B	○小中一貫教育推進委員会を学期に１～２回実施し、小学校の授業改善の取組や研究主題に係るアンケート形式の統一化等、研究にむけて研究主題や取組の共有を行うことができた。 ○小中乗り入れ授業の取組強化により、小中間の情報交換や連携をよりいっそう深めることができた。 ○新入生保護者説明会をインターネット上で資料の提示、質問受付等することができた。また地域の保育園避難訓練での立ち寄りなど幼保との連携が深めた。 ●コロナ感染防止のため、小中合同研修、運動会等行事の中止により、昨年度まで実施の運動会での合同演技や陸上競技大会前の合同練習など生徒、児童の交流が例年のように深めることができなかった。

（様式２・中学校用②）

草加市立瀬崎中学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題　○成果　●課題
Ⅱ 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	・15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 ・教育計画の作成 ・教育活動の評価 ・目標、方針の周知 ・授業時数の配当、確保	B	○コロナ禍ではあったが、授業時数の確保に邁進し、教育計画により近く、指導要領の各教科・領域の授業時数の確保を図ることができた。 ○学習指導要領の内容をもとに、学習シラバスや年間全体計画、指導計画も臨機応変に対応し、ほぼ予定通り実施できた。 ●授業時数全体は確保できたが、コロナ禍で計画通りにできた部分と急いだり変更を余儀なくされた部分はあった。休校になったときを想定して、ICTやネット配信による授業を進め、生徒の学びをとめないよう策を検討、改善していきたい。
	②教科指導	・指導計画の立案 ・主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 ・評価、評定の工夫 ・外部人材の活用	B	○自主研修や教科会等を行い、学力向上に向け来年度に向けての指導計画の立案、指導方法の改善・工夫に取り組んでいる。 ○授業を着実に進めることができた。 ○学習補助員や特別支援補助員を適切に配置し学習効果を図ることができた。 ●コロナ禍で主体的・対話的で深い学びの実現のために、感染対策を十分にした上で言語活動や生徒同士のコミュニケーションを図っていきたい。
	③道徳教育	・全体計画の作成 ・各教科との関連 ・道徳的実践力の育成 ・家庭、地域社会との連携 ・いのちの教育の推進	B	○道徳部会を中心に教材選定や資料作りを行う中で道徳時数の完全実施を図ったるとともに各教科・領域や学校行事との関連を図り、道徳的実践力を向上させることができた。 ○ローテーション授業を進めることでスムーズに授業展開が可能となり、子どもの豊かな心を育成することができた。 ●扱う題材が実施時期にそぐわなかった時もあったので、全体計画、年間指導計画の見直しを図っていきたい。
	④特別活動	・指導計画の立案 ・学級活動、学級経営 ・学校行事 ・生徒会活動	B	○学級経営は各学級経営計画のもと、計画的に実践することができた。 ○生徒会活動は、教師の支援を減らし、生徒の自主的な運営を心掛け、実践することができた。また、コロナ禍で各委員会での活動も積極的に行うことができ、学習環境の向上につなげることができた。 ●コロナ禍で学校行事が中止となったが、感染防止対策、ICT機器を駆使することで行事を前向きに開催できるようにするとともに、より生徒の自治能力を高める取り組みを行っていきたい。 ●下級生が様々な行事を経験しておらず、進級するのは心配である。
	⑤「総合的な学習の時間」の指導	・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫と改善 ・評価の工夫 ・地域の人材・物的資源の活用	B	○特色ある取組の一つである「性出会い学習」を通して、調べる・体験する・まとめる学習を実践させることができた。また、数少ない学校行事の中で成果を収めることができた。 ●行事計画の精選とともに、地域人材の活用、物的資源の活用を含めて年間指導計画に少しでも盛り込んでいくようにする。

⑥生徒指導	・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・教育相談、生徒理解 ・いじめ防止対策 ・保護者、地域、諸機関との連携	A	○生徒指導委員会を中心に学習規律の徹底を学校全体で取り組むことができた。また、子どもを取り巻く時代や環境の変化（特にSNSによるトラブル）に適切に対応することができた。 ○学校全体で年初に生徒指導マニュアルの作成・読み合わせによる徹底とともに、コロナ禍に応じた適切な対応ができたことで保護者との信頼関係を強化することができた。また報・連・相の徹底と共通理解をさらに深める生徒指導であった。
⑦キャリア教育	・組織的なキャリア教育 ・指導方法の工夫と改善 ・啓発的経験の充実 ・進路情報の収集・活用 ・職場体験活動	B	○進路だよりを全学年に配布、１・２年時に進路を意識させることで学習意欲の向上や自己実現への取組につながる指導をすることができた。 ●職場体験（１年）、上級学校訪問（２年）は綿密な計画はしたが、実施することができなかったが、共に調べ学習により成果をあげることができた。全学年通してキャリア教育を意識して、計画的に進めていくようにしたい。
⑧特別支援教育	・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備	A	○学校全体で支援できる体制を整えることができた。また、通常学級で特別配慮を要する生徒に対して、教育支援室、相談室、SC、SSW等に協力を得て、組織的に対応することができた。引き続き研修を深め、適切な支援をしていきたい。 ○教育相談部会で特別に支援が必要な生徒の一覧や個別カードを作成し、特別支援コーディネーターを中心に、情報の共有を行い、一人ひとりにあった支援方法を確認、実施することができた。
⑨学校図書館教育	・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫	A	○司書教諭と図書館司書による適切な整理がなされ、昼休みの貸し出しや消毒作業など充実した経営ができた。 ○図書館だよりの発行、季節や長期休業に即した蔵書コーナーの設置や掲示物の充実に取り組み、一人への貸し出し数を増やすことができた。 ○空き教室を活用して、第二図書室を開設することで、各学年の授業等で手軽に生徒が本と触れ合う機会を増やすことができた。
⑩情報教育	・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ＩＣＴ機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進	B	○指導計画をもと、パソコンの扱い方及び情報モラル、セキュリティポリシー等について教職員全体で考える場面を増やすことができた。 ●授業や校務において、ＩＣＴ機器の積極的な活用を図ることができたが、休校を想定してICT機器の活用をさらにすすめ、Zoomによる会議や授業の配信の活用を進める必要がある。
⑪人権教育	・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実	B	○計画的に社会の授業を中心に、「ビデオ視聴」や「被差別部落や差別等の資料」を通して人権に対する意識の高揚を図った。 ●コロナに感染した人や濃厚接触者に対する考え方、接し方について教育していく必要がある。あわせてSNS等による中傷被害等人権問題について、教科・領域の計画に含め、人権擁護の意識の醸成を図る。

（様式２・中学校用③）

草加市立瀬崎中学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題　○成果　●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	学力の向上	基礎・基本の充実 校内研修	B	○各教科の小テスト、単元テスト、３教科コンテストを実施し、基礎学力の向上、基礎・基本の定着を目指すことができた。 ○自己有用感、自己肯定感を育む授業改善を全教員が自主研修を行ったことで、よりよく学力を向上させるための授業改善を進めることができた。 ○「授業の５原則」の徹底により、授業規律の確立が、学力の向上につながった。 ○幼保小中一貫教育を通して、校種移行時のスムーズな指導や躓き等の情報交換を行うと共に、「標準カリキュラム」の本校の実態に見合った改定により、系統性を持たせる授業が複数教科で実践することができた。 ●家庭学習の定着が徐々に図られてきているので、小中の系統性をより考慮して継続していきたい。
	基本的生活習慣の確立	・あいさつ ・時間を守る ・学習環境の整備 ・授業の5原則	A	○「礼を正し」「場を清め」「時を守る」のさらなる定着が見られた。各学年「チャイム前着席」の確認を学級委員や生活委員といった生徒の自治運営組織づくりによって主体的に「よりよく生きる」ための方策を探って、実行することができた。また、効果的な掲示物等、学習環境の整備について意識して取り組むことができた。 ○授業の５原則が、どの教室にも掲示されておりユニバーサルデザイン化を図ることができた。（授業の用意・チャイム席・あいさつ・忘れ物・無駄話をしない） ○「時間前行動」を意識した行動が図ることができたことにより、全校集会・学年集会・各行事等時間前には静かに整列することで落ち着いて行事に臨むことができた。
	健康・体力	・健康集会 ・部活動 ・性教育	A	○各学年「性出会い学習」等で命の大切さや健康に過ごすための意識を高めることができた。 ○コロナ禍で３年最後の運動部の大会は中止となったが、１・２年生の新人大会では、賞状を獲得するなど活躍した。また部活動を通して、体力の向上とともに豊かな心と健やかな体を育成することができた。

５　総合評価（学校関係者評価を含む）

○全教職員が「自らの生き方を考え、実践する生徒の育成」を目指し、計画的な自主・教科別研修に取り組むことができた。また幼保小中一貫教育の研究主題である自己肯定感、自己有用感を育む教育の推進を柱に、小中連携会議を積み上げ、学校間・教職員間の情報共有し、連携して各校の課題を整理するなど取組の成果が少しずつではあるが、現れてきた。

○「基礎・基本」の定着を目指し、長期休業中や定期試験前の補充学習、３教科によるコンテスト実施による基礎学力の向上、予習・復習等の家庭学習の習慣の確立、毎時間のドリル学習を行い成果が上がってきている。

○教職員による朝の立哨指導を含めた「健康観察」並びに保護者による「愛の声運動」（あいさつ運動）を計画的に実施し、全生徒を全教職員で見守り、あいさつや声掛けを行うことができた。本校の特色の一つでもあるので、今後も力を入れていく。

○「性出会い学習」は、本校の特色ある教育活動であり、継続していく。命の大切さや人権教育に結び付く成果を上げることができた。

○生徒、保護者、地域のとの信頼関係がさらに構築され、よりよく生きるための教育活動を実践することができた。（学校の各種行事やＨＰや各種便りなどの情報配信メールの活用と円滑な防災訓練運営等）

○草加市・埼玉県（全国）学力学習状況調査結果から学習に伸びが見られ、学力の向上が図れた。今後も校内で調査を分析し、充実した学習環境を整備するよう、継続して取り組んでいきたい。

○昨年度に続き、保護者・地域の方から高い評価をいただいている。特に学校環境面について安全で安心な学校、授業規律やルール・マナーを遵守した落ち着いた学習環境、いじめのない、生徒同士がお互いによさや努力を尊重しあう人間関係、などの高い評価を真摯に受け止め、「よりよく生きる」生徒の育成のために、学校全体で取り組んでいくことが重要であると考えている。そして教職員それぞれが自分の問題として認識し、常に授業改善等でよりよくしていこうという意識を持つこと、そして課題解決能力を身につけ、目指す学校像・生徒像に向けて取り組んでいきたい。

６　次年度の改善策

○校内研究組織を中心に組織全体で課題解決に取り組めるよう、一層の研修に励み、学校全体で推進していく。

○校内での取組

・学力の向上について、今後も学校としての最重要課題として捉えていきたい。また、研究発表にむけて研究主題でもある「自己肯定感や自己有用感を育む」教育の実践を通して、「幼保小中一貫」を意識した連携をより一層深め、１５ヶ年の学びのカリキュラムを実践していきたい。

・生徒指導について、授業規律の確立を通して生徒同士、生徒と教職員との関係も年々向上し、信頼関係が築きあげられた。生徒に寄り添い、生徒の自主自律のための支援をしていく。そのためには、まず、さらなる授業力の向上である。教師は授業がすべてである。授業から生徒一人ひとりを活かすとともに、自己肯定感、自己有用感を育む指導力を発揮すること、そして教員が共通理解・共通行動を図り、自己実現につなげる生徒指導が図れるよう工夫・改善及び研修の取組をしていきたい。

●全体的に生徒は積極的にあいさつがよくできてはいる（生徒評価92.2%、昨年比-1.3%）が、保護者は生徒が正しい言葉遣いを含めて、それなりにできている（保護者評価83.2%、昨年比-5.6%）と認識に差があることから、学校関係者以外に対しても学校外においてあいさつを徹底していかなければならない。教職員が積極的に声掛けや挨拶の手本を示し、さらに部活動等で対外的な場面において、指導が必要である。

●保護者評価「生徒は体力向上に向け、体育や部活動に意欲的ですか」について、おおよそ意欲的である（85.1%）が、昨年度より下がった（-7.2%）。コロナ禍における休業期間が長引いたことが原因として考えられる。どのような状況下でも自ら体を積極的に動かし、体力向上に努めることができるよう、意識の醸成を促していく。また本校独自の「健康体力集会」は今年度は中止となったが、引き続き本校の体力課題を洗い出し、課題を解決するための方策を生徒自身が選択していけるように、指導をしていく。

●一方で、学校公開や三者面談（１・２年）の中止により、保護者が生徒の学校での様子や保護者からご家庭での様子を伝えたりするなどの相談することができなかったことから、「学校の様子を保護者や地域に伝えていますか」について、昨年度より評価が下がった（-8.1%）。担任と顔を合わせて話をすることの重要性を感じることができた。コロナ禍の状況にもよるが、WEBを活用して実施していけるように努めていく。